環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

第１６６号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば

TEL：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

第 30 回「エコメッセちば 2025」報告
ご来場・ご出展・ご協力ありがとうございました！！

エコメッセちば実行委員会委員長　桑波田和子

オンライン開催：10 月 18 日(土)10：00～　　会場：エコメッセ HP
会　場　開　催：10 月 19 日(日)10：00～16：00　会場：幕張メッセ国際会議場 2 階
会場来場者数：7,500 人

今回で 30 回目を迎えた「エコメッセちば 2025」は、盛況のうちに会場開催を終了しました。
エコメッセは 1997 年からスタートし、これまでみなさまのご支援、ご協力、ご協賛、ご後援、ご来場などにより継続できたことに、改めて感謝の気持ちで一杯です。同時にこれまで休むことなく継続し続けた実行委員の尽力にも、感謝以外の言葉がみつかりません。
19 日の会場開催開会式では、神谷千葉市長からもお祝いのメッセージを頂きました。多様な主体及び市民・県民として持続可能な社会に向けて、「自分ごと」「連携する」など、エコメッセちばに今後の期待をいただいたと思いました。
今年のテーマは「大感謝祭」でした。経費のこともありハードルの高かった国際会議室を借りることで 2 階の全フロアーを使用でき、コロナ以前のエコメッセに戻った気がしました。
出展団体は 95 団体（105 ブース）の他に、ホワイエでは SDGs マルシェ(９ブース)でした。ブース以外の屋外では次世代自動車・展示・試乗会。国際会議室では、実行委員会ユース企画の「もったいないものバスターズ！～ようこそハロウインフェスティバルへ～」。同じく実行委員会企画の「里山ワールドから大草原とどんぐりの森～」「缶つぶし大会」。202 室では「環境かるた大会」。203 室では「モノが生まれ変わる様子を見に行こう！上映会」。201 室 B では「子どもすごろく、お金のセミナーなど」体験活動を展開しました。また、201 室 A では千葉県主催の「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」が開催され、受賞 3 団体が決まりました。
また、各ブースを体験していただくための「SDGs ビンゴ」を実施し、午前と午後 2 回ビンゴ大賞抽選会も行いました。
会場では、多くの来場者があり、各出展ブース及び企画イベントなど賑やかに体験・学び・交流されている姿が多く見られ、「有意義でした」と出展団体のアンケートから知ることが出来ました。
ここ数年、親子や若者の来場者も多く、環境への取り組みを知っていただき、次世代へ繋ぐ場を提供していると思います。
会場内に「エコメッセ 30 年の歩み」をパネルで紹介しました。懐かしく思う年配者のほか、これまでの継続に敬意をいだき次へ繋ぐ事が大切との若者の声に、うれしく思いました。
オンライン開催は「エコメッちば HP」で 10 月 18 日にスタートしました。オンライン出展団体の動画及団体インタビューは、「エコメッセちば 2026」開催前日まで配信します。団体インタビューは、成田空港(株)の環境への取り組みが、若者の視点でわかりやすくまとめられています。未だの方は是非ご覧ください。
来年 31 回目となる「エコメッセちば 2026」は、オンラインを 2026 年 10 月 10 日(土)から、
会場開催を 11 日(日)に幕張メッセ国際会議場で開催します。
ご出展ご来場などをご予定に入れていただきますよう、よろしくお願いいたします。

令和７年度「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」受賞団体決まりました！

開催日　：令和７年１０月 19 日（日）12：30～14：30
開催場所：幕張メッセ国際会議場 201 室Ａ　「エコメッセ２０２５会場内」
受賞団体
第1位　K. LAB（ケイラボ）　「キョンの胃から作る,未来のペットサプリ革命」
第2位　安房拓心サトウキビ組合　「サトウキビの栽培・有効活用～FARM TO FUTURE～子どもから大人まで地域で作る新たな産業」
第3位　ビーチバ　「白里海岸 keep and clean 大作戦」

今年で３年目となる、千葉県主催の「若者が主役の環境保全活動のアイデアコンテスト」を開催しました。この事業は、若者の創意工夫によるし、活動への支援を行うことで、千葉県内の環境活動をリードする若手人材の育成を図ることを主旨とする事業のアイデア募集を行った結果、13 団体から応募がありました。審査員による一次審査の結果５団体が選ばれ、二次審査は 10 月 19 日「エコメッセちば 2025」の会場内、幕張メッセ国際会議場 201 室Ａで開催されました。
二次審査のコンテストに挑戦する５団体は、①安房拓心サトウキビ組合 ②K. LAB ③SATOASOBI ④ビーチバ ⑤Re：Creation でした。13 応募団体の中には、３年目にしてはじめて社会人の若者団体がありました。応募テーマも、温暖化防止、空き家対策、街づくり、環境と健康など分野がひろがり、また、千葉県の独自の課題なども今年の特徴でした。
審査員から応募団体ごとに「いいところ、改善点」をいただきましたので、応募団体全てにお知らせしました。いいところでは、課題解決へ向けての新しい視点。改善点では、多様な主体との連携など広く呼びかける工夫が必要など記載されていました。今後の活動のヒントにしていただきたいと事務局では期待しています。
当日は、５団体自らが審査員やエコメッセ来場者へ向けて応募内容を説明しました。プレゼンの順番は当日の抽選で決まり、アイデアへの熱い想いを発表しました。
採点は審査員の点数にコンテスト会場やエコメッセ来場者などの投票数も加点され、上記の通り順位が決まりました。授賞式はエコメッセ会場のエコステージで行われ、審査員からは応募団体へのねぎらいと提案事業の実現を期待（応援）していますとメッセージがありました。

今後は年内のうちに、応募提案した事業内容を実行するために、活動に関係する、協力してもらいたい団体、事業者、行政などにも声をかけて話し合うスタートアップ会議を行います。そのうえで始めた活動について、年度末には、活動の進捗状況をお知らせする報告会を 2026 年２月に開催します。さまざまに支援を受けながら活動を進める様子を、皆さまに見守っていただきたいと思います。
令和６年度の受賞団体の活動紹介は、エコメッセちば 2025 の当会のブースで行いました。受賞後も元気に活動している様子等を聞くことが出来、今後に継続し応援者も広がる支援が必要と、受託事業者としても再認識しました。さらに、令和５年度の受賞３団体もエコメッセに出展し、活動を継続している様子を知ることが出来、頼もしい存在でした。
受賞団体報告会のお知らせは今後、県の HP や当会の HP 等にもお知らせします。皆さまのあたたかいご支援をお願いします。

（事業受託団体 NPO 環境パートナーシップちば
桑波田 和子）

令和５年度・令和６年度
「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」受賞団体の活動紹介

「エコメッセちば2025」会場出展に、令和５年度６年度の受賞６団体が出展してくださいました。
令和５年度受賞団体は、①成田日本茜復活チーム（成田西陵高等学校園芸科作物専攻)、②里山活用コミュニティ「グリーンベース」(学生団体グリーンベース)、③地域の特色を活かした自然体験型学習プログラムの構築(千葉大 NESO)の３団体です。
①と③はエコメッセコンベンションホール内に出展。①の団体は、茜の染め物などを紹介し、スタッフには卒業生の大学生も加わり、先輩後輩への繋がりを感じました。
③の団体は生き物を見せて子ども達に人気でした。こちらも新しいメンバーが加わり、来場するこども達に生き物への関心を引き出していました。
②の団体は、国際会議室の中の体験ブースに出展し、エコメッセ実行委員会のユース企画と連携し，里山に関心を持ってもらうこと、又ユース企画イベントで使用する竹など多くの資材を提供してくれていました。今後も、大学生ならではの魅力的な里山の保全と活用を創っていきますので応援よろしくお願いします。
令和６年度受賞団体は、①千葉県立大網高等学校農芸化学プロジェクトチーム、②carutena（カルテナ)、③東邦大学ネイチャープロジェクトの３団体です。こちらはホワイエで若者事業の紹介ブースの中で来場者に対応して頂きました。
各３団体とも、応募したアイデアを元に活動が広がっているようです。コンテストの前に審査員も訪れ、活動の様子を熱心に聞いて下さいました。
令和５年度、６年度の受賞団体の活動が継続していることを実感できる場にもなりました。

（文責：桑波田 和子）

エコメッセに出展報告
～ユースボランティア体験について～

2025 年のエコメッセでの環境パートナーシップちばブースは、昨年に引き続き「夏休みユースボランティア体験の報告」ということで、夏休みにボランティア活動体験を受け入れてくれた団体さんと、そこに参加してくれた若者の様子を展示で紹介させていただきました。今年も７団体さんが受け入れ協力をしてくださっています。
そして今年は受け入れ団体の一つ「三番瀬を大切にする会」の樋山さんの協力で、三番瀬で拾ったプラスチック破片をケースや袋に閉じ込めて作るアクセサリーのワークショップ（ＷＳ）を実施しました。色とりどりに並べられたプラスチック片は、ごみというよりはビーズのような印象で、ＷＳは大人気でした。また、会のメンバーさんが制作したプラスチック片で描いた絵画が素晴らしく、通りがかる人たちの目を惹いていました。
ＷＳに参加する親子連れは、お子さんが体験するのでその間に大人の方々にユースボランティア活動報告の展示を見てもらい、感想やエールを一言書いてもらうようにしたところ、「受け入れ団体の活動の中に参加してみたいイベントがたくさんありました！子どもたちとぜひ一緒に体験したいです」「プラスチックで作成するアートがすばらしかったです。子どもも喜んでいるのが良かったです」「市民団体がいろいろな活動をされているのを知りました。子どもたちが住みやすい環境になってほしいです！」などたくさんのコメントをいただきました。
こうして多くの方が注目してくれたのも、ＷＳで集客があったからこそです。ユースボランティア体験でもご協力いただき、今回もこうしてご協力いただけた三番瀬を大切にする会に感謝申し上げます。（文責：廣田由紀江）

エコメッセちば ユース企画について

ＮＰＯ法人 おりがみ　土谷 悠太

エコメッセちばでユース企画が本格的に動き始めたのは 2020 年頃です。学生団体おりがみは以前からエコメッセちばでブース出展を行っていましたが、その年はコロナ禍で対面開催が難しく、実行委員会ではオンライン開催への挑戦が進んでいました。そんな中で声をかけていただき、パネルディスカッションを共につくり上げた経験が今のユース企画の出発点だったように思います。実行委員会と若者が協働し、新しい形を模索する最初の挑戦でした。

翌年もオンライン開催となり、「SDGs ユース企画」としてビーチクリーン活動の中継や、水をテーマにしたオンラインディスカッションを実施し、画面越しであっても若者の視点や行動を届けられたことは、大きな学びに繋がりました。

コロナが明けて対面での開催となった年には、「ワクワク川すごろく」を企画。ユースメンバーが県内の川を巡り、自然の魅力や地域の環境活動を取材し、その気づきをすごろくとして表現しました。2023 年は里山をテーマに体験会を行い、2024 年は川と里山の二つのテーマに挑戦し、これまでの集大成となりました。

そして今年は「もったいないものバスターズ」。使われなくなった物をアートに変えたり、古着のワークショップを実施。ハロウィンの要素と合わせて会場を盛り上げました。

また、数年前から続く団体インタビューでは、学生が企業の環境活動を取材し、動画として発信しています。若者が企業の取り組みを深く知るだけでなく、新しいつながりを生む架け橋にもなっています。

ユース企画は、親子や若者が来場するきっかけとなると同時に、若者・企業・実行委員会が互いに学び合う貴重な場として、毎年大きな役割を果たし続けています。

団体インタビューした企業さんの前で記念写真

ユース企画：もったいないものバスターズ報告

学生団体おりがみ環境チーム　清水 凛

学生団体おりがみ環境チームは、昨年に引き続きユース企画「もったいないものバスターズ～ようこそハロウィンフェスティバルへ～」を運営しました。このテーマは、リサイクルやリユースの方法をハロウィン要素と掛け合わせ、「ゴミ怪獣を倒す」というコンセプトのもと、楽しく学んでもらうことを目指しました。

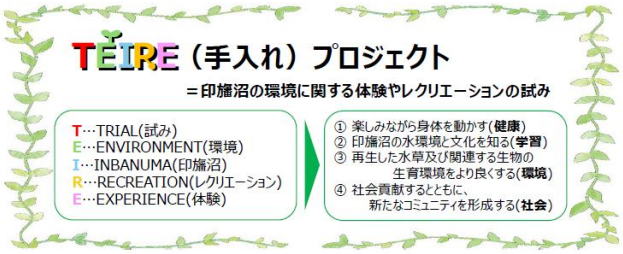
本企画では、環境問題の解決に繋がる７つの体験型企画を実施しました。具体的には、放置竹林の竹約 100 本を利用した竹迷路企画で竹の有効活用を促し、株式会社 ZOZO 様の協力による仮装体験企画では古着でリメイクを楽しみました。海に落ちているゴミであるシーグラスを用いたシーグラスアートは環境意識を高められる思い出となり、普段捨ててしまうペットボトルキャップとレジンで作るキーホルダー企画は資源の再利用を体験させ、好評を得ました。さらに、教育チーム班は千葉県モニュメントを作成し、そこに貼られたゴミを使い、スノードームなどを作成するとともに分別ゲームで学習を促し、国際班は家庭ゴミを使って真っ白な骸骨をメキシコのカラフルな骸骨に仕上げるユニークな試みを行いました。また、クイズ班は環境問題に関するクイズを出題し、知識の定着を図りました。

これら７つの企画の運営は大変でしたが、整理券の電子化など環境に配慮し、学生自身も自宅にあるものを使用するなど、イベント自体が環境に優しいものとなるよう努めました。

エコメッセちばを通じて、学生からは「私もお家に眠ってる古着リメイクしてみようかな」「ゴミを楽しく使えて自分も学べた！」といった感想が寄せられ、楽しみながら環境の大切さを伝え、具体的な行動のきっかけを提供することに成功しました。

千葉興業銀行 TEIRE イベントへの協力報告

「千葉興銀 eco フェス in 印旛沼」は、当会の賛助会員でもある千葉興業銀行と当会で連携し、印旛沼への取り組みを令和５年度からスタート。まず印旛沼を知ると題して令和６年３月にふるさと広場の周辺のゴミ拾いを主に、生物多様性を知ることとしました。同年の秋には、印旛沼の課題の一つのオニビシについて印旛沼の中からと護岸から見る事を行う予定でしたが、雨天で中止になりました。令和７年度の取り組みについて協議して行く中で、千葉県印旛沼流域水循環健全化会議が取組んでいる TEIRE プロジェクトに関心を持たれ、協議が進みました。TEIRE プロジェクトは主に印旛土木事務所が関わることから打ち合せを持ちました。その中で、間野台小学校（佐倉市立）が学校で育てている印旛沼のアサザをふるさと広場の水草園に里帰りするイベントが予定されていることに繋がり、水草園を整備することになりました。２つのイベントの主体は異なることから、実施までに丁寧な打ち合せや準備が行われました。
９月 27 日当日は千葉興業銀行からは約 40 名と NPO いんば、千葉県、当会と、総勢 50 人以上が参加しました。
親子参加の子ども達は水草園で生き物探し、大人はナガエツルノゲイトウやチクゴスズメノヒエの駆除作業、インバモ、イヌタヌキモ（貴重植物）を育てる水槽（モグリウム）の準備など、それぞれ充実した活動が展開されました。
ザリガニは釣れませんでしたが、チョウセンブナ、カエル、カワセミと、生き物を間近に見る事が出来、親御さんからは生き物に関心を持つようになったと聞きました。
印旛沼の環境保全活動としての多様な主体と連携し TEIRE プロジェクトの一つとして進められた活動でした。　　（文責：桑波田 和子）



TEIRE プロジェクト第１弾
－間野台小の水草お里帰りイベント－

NPO いんば　園原 悦子

NPO いんばでは、印旛沼の岸辺に「笠井記念舟戸水草園」を造り、在来水草を保全・育成しています。また、育てた水草、特にアサザを佐倉市内の小学校の観察池に移植し、増えた株を他の小学校に移植、という水草バンクシステムという活動を行っています。このたび、佐倉市立間野台小学校の池に入れたアサザがたくさん育ったため、その一部を印旛沼に戻す「お里帰りイベント」を 10 月２日に行いました。
５年生３クラスの 79 名が午前・午後の各２班に分かれて、佐倉ふるさと広場の湖岸にある県の水草園にアサザを植えました。代表になった児童２名×4 回の計８名が胴長を履いて水草園（水深 20cm くらい）に入り、佐倉市役所の職員さんにサポートしてもらいながら、丁寧にアサザの苗を植えこみました。
間野台小学校の池にはインバモやイヌタヌキモもたくさん増えているので、これらの沈水植物は、陸上にモグリウムという大きな水槽を作り、その中の植木鉢に植えこみました。
そのほか、学校で書いてきたメッセージカードを掲示板に貼ったり、モグリウムの外側に学校名や好きな絵を描いたり、みんなが仕事を分担して限られた時間にいろいろなことをやり遂げました。
このお里帰りイベントは９月 27 日の千葉興銀イベントと合わせて TEIRE（手入れ）プロジェクトの第１弾イベントという位置づけで、主催：NPO いんば・佐倉市立間野台小学校、後援：印旛沼流域水循環健全化会議、協力：千葉興業銀行、NPO 環パちば、という協働体制で行われました。一緒に活動してくださったみなさまに、心から感謝申し上げます。

花菖蒲とノハナショウブ 講演会

2025 年 10 月 12 日に開催された佐倉里山大学令和７年度公開講座「花菖蒲とノハナショウブ講演会」（於 佐倉市志津コミュニティーセンター）に参加した。
第１部は玉川大学名誉教授田淵俊人先生による「花菖蒲とノハナショウブ」と題した講演。日本に自生する植物であるノハナショウブと、それをもとに江戸時代中期から後期に育成された花菖蒲は日本人の手による純国産の花とのことで、その品種改良の歴史をたくさんの美しい写真とノリのよい話術でご紹介くださった。
ノハナショウブは水辺の植物で、湿原や谷津田などが人為的開発や気候変動により乾燥化し、シカの食害も加わり、自生地が激減している。佐倉市畔田は、今残っている 13 か所の自生地のひとつとして大変貴重であるとのこと。
続く第２部では佐倉緑の基金 原慶太郎氏と畔田谷津ワークショップ 小野由美子氏から、2006 年に佐倉市が購入した畔田谷津の土地を 2007 年から市民と市の協働で谷津環境の再生と保全を進める中、2013 年に初めてノハナショウブの開花が確認され、その後の整備・保全の活動によって、2025 年には 1,000 を超える花茎数にまで増えていることが報告された。また、佐倉市公園緑地課木谷慎志氏からは、佐倉市の『市の花』でもある花菖蒲を育てるため、城址公園の菖蒲田の再生工事を行っているという報告があった。
この講演会の主催は佐倉市であったが、佐倉市の里山保全 19 団体が協力者として名を連ねており、会場には団体紹介のパネルが展示され、休憩時間に来場者と団体の交流風景も見られた。
最後にうれしいニュース。令和７年９月に畔田谷津下流域が、環境省から自然共生サイト（民間の取組等によって生物多様性の保全が保たれている地域）として認定されたそうです。おめでとうございます！　（文責：小倉 久子）

畔田谷津のノハナショウブ
2025/6/13
撮影：原 慶太郎

今年のＥボート大会は雨の中でも楽しかったと言っていただきました

第１２回Ｅボート千葉大会 in 浦安実行委員会 横山清美

202５年１１月９日（日）に、浦安市の境川を会場として３回目となるＥボート千葉大会を開催しました。
今年も、9 月に 20 チームの募集を開始しましたが、なかなか参加者が集まらなかった去年とはうって変わり、開始から２週間ほどで募集締切となり、事務局を慌てさせるほどに順調な始まりでした。
応募チームには、昨年の荒川遠泳大会から参加されたお一人の「タネ」が３チームになったり、浦安でこんな楽しい大会があったの知らなかった、という企業さん、また２チームになった昨年の参加チーム、第 10 回から浦安での大会ご参加の印旛沼チーム、浦安市役所チーム、市川市役所チームも無事参加でき、当日を楽しみに迎える準備をしました。
前日から雨天の予報ではありましたが、荒天（風がある）ではないことから開催の判断としましたところ、前日にシニアチームのキャンセルがあっただけでした。止まない雨の中で大会は始まりました。しかし、参加チームのどなたからも、中止要請はなく、粛々と対戦していくチームに運営側も後押しされて、濡れながらの決勝戦、全員が参加された表彰式となり、集合写真にも雨の中ご協力いただきました。実行委員一同、参加チームの応援に勇気づけられた千葉大会となりました。
最後に今年も大会に協賛いただいた「田中海苔店・浦安防災（株）・金のココロ・三和製作所」様、出店会場・スタッフの休憩所を提供いただいたクリニック様、保育園様に感謝いたします。
地域や企業の協力によって終了後、参加チームの方々に、楽しかった！また来年ね、と言っていただき、なんてありがたいことかと感謝しています。来年もお会いできるよう頑張りたいと思います。

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　79　―
おききしました！　この人・この団体

地域とともに、笑顔とありがとうを広げる SDGs の実践

BSC 実行委員会 杉浦 克子

BSC（Baytown SDGs Creation）実行委員会は、幕張ベイタウン（千葉市）を中心に、2015 年に国連で採択された SDGs の啓発活動を通して、持続可能な地球、地域を目指して新しい街を創造し、地域を中心として将来の地球環境のことを考えるための活動を行います。SDGs の精神である『誰一人取り残さない』社会を目指し、神田外語大学教授石井雅章さんにサポートいただき、SDGs の存在意義と価値観、必要性をも含め、経済・社会・環境のあるべき姿について考えていく事を目的とします。

活動の中心は、毎年海浜幕張エリアを拠点に開催している「SDGs CREATION FES」。地域の企業・行政・学校・市民団体が垣根をこえて協働し、体験・展示・ワークショップを通して「SDGs を身近に感じる一日」をつくっています。2025 年開催では、環境保全や資源循環、ジェンダー平等など、社会課題に対する多様な取り組みを紹介し、子どもから大人まで 1,000 人を超える来場者が参加しました。
来場者同士がFESから刺激を受け、自分自身を見つめなおしたり、考える光景が印象的で、SDGs を楽しみながら地域に新しいつながりの輪が生まれています。

BSC 実行委員会の特徴は、多様な異業種がそれぞれの強みを活かして SDGs に取り組んでいることです。

たとえば、レオニダス海浜幕張店は子どもたちへの絵本の読み聞かせを通じて教育・文化の大切さを伝え、千葉スズキ株式会社は昆虫食の販売を通じて未来の食の可能性と地球環境への配慮を提案しています。

また、ハッピースマイル教育研究所、あおぞら DOG ダンスサークル、キャンディルデザイン、オリーブの木、竹下司法書士事務所など、他にもご紹介しきれないほど、多様な分野の専門家や団体がそれぞれの視点から SDGs を発信し、地域の中で学び合い・支え合う関係を育んでいます。

BSC 実行委員会では、こうした多彩な活動をつなぎ、企業や個人が互いに刺激し合いながら新しい社会価値を創造することを目指しています。「地域の人と人をつなぐハブ」でありたいと考えています。地域の方々が「ありがとう」と笑顔で言葉を交わす――そんな温かいコミュニティづくりが、私たちの願いです。

そして、次回の「SDGs CREATION FES 2026」は、**2026 年 4 月 25 日（土）**に開催を予定しています。テーマは「防災 × SDGs」。地震や豪雨などの災害が増える中で、「もしも」の時に地域が支え合う力を育むことを目的としています。

防災用品の展示や体験ブースのほか、子どもたちと一緒に身近に実践できる防災の知恵を共有する企画を進めています。環境と防災は切り離せないテーマであり、気候変動への理解を深めながら、安心して暮らせる地域社会をみんなでつくる機会にしたいと考えています。

BSC 実行委員会の活動は、小さな活動ばかりです。しかし、たとえ小さな行動でも、想いを持って続けることで必ず社会は変わる――そう信じています。これからも地域の皆さまと手を取り合い、「ありがとう」と「笑顔」があふれる持続可能な未来を創ってまいります。

運営会議報告

10 月度運営会議

10 月９日（木）20:00～21:30
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
・ボランティア体験
　10/19 エコメッセちば 2025 環パブース展示
・若者事業 一次審査結果 ユースチーム打ち合わせ
・千葉興銀との連携事業 印旛沼水草園のサポート 9/27
・第３回理事会 10/6

【協議】
・だより 166 号　進捗
・ちば環境再生基金事業 ボランティア体験報告
　10/19 エコメッセ 環ぱブース
・SDGｓ学生フォーラム　おりがみ
・会員サロン開設　10/12
・若者事業　アイデアコンテスト
・Ｅボート千葉大会　11/9　　他

11 月度運営会議

１１月１３日（木）20:00～22:30
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
・エコメッセちば 2025 開催報告
　10/18 オンライン 10/19 会場開催 7,500 人来場
　　環パブース：ボランティア体験活動報告
・エコメッセちば 2026
　10/10 オンライン開始　10/11 会場開催
・若者事業　アイデアコンテスト 10/19
　振り返り 審査員 11/6　県 11/7
・会員交流サロン　10/21　・Ｅボート大会　11/9
・ESD フォーラム12/7　・ふなばしエコカレッジ 11/27
・いちはら環境市民大学　11/18　12/2

【協議】
・だより 166 号　進捗
・ちば環境再生基金事業　SDGｓ学生フォーラム
・会員サロン開設　12/4
・若者事業　スタートアップ会議 報告会開催
・拠点活動　南房総市内　２月中旬
・R８年度事業検討　他

お知らせ

良好な環境創出シンポジウム 2025
～多様な主体の共創による
地域の魅力度向上を目指して～

日時:令和7年 12 月 22 日(月) 13:00～
ハイブリッド開催【会場/WEB】
・事前申込制(会場は当日申込可)
・会場入場無料
会場:ベルサール神田2階イベントホール
(千代田区神田美土代町7
住友不動産神田ビル)
主催:環境省
定員:会場 100 名(WEB 参加は制限無し)
https://www.env.go.jp/press/press_01401.html

自然共生サイト認定記念 生物多様性シンポジウム
―自然を次世代につなぎ、
まちを次世代につなぐ―

日時：2026 年 1 月 18 日（日）
13:30～15:30
会場：佐倉市中央公民館ホール
（佐倉市鏑木町 198-3）
主催：佐倉市　共催：（公財）佐倉緑の基金
プログラム：
・ネイチャーポジティブ宣言
・基調講演：国立環境研 西廣淳氏
・取り組み事例紹介
参加費：無料　要申し込み
申し込み締め切り：26 年 1 月 14 日
問い合わせ：佐倉市生活環境課
(043-484-4278)

詳細はこちら
（佐倉市 HP）

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633　　E-mail：info@kanpachiba.com
ホームページ：https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。